タカクラ・テル（高倉輝）年譜　(1891 ～ 1986)

2015 年 11 月 17　日改訂　山野晴雄

年		歳		社会の動き
1891	明治 24	0	4 月 14 日、高知県高岡郡口神川（くちごうのかわ）に生まれる。本名高倉輝豊。父輝房、母美弥。次いで同郡秋丸、のち幡多郡七郷村（ななさとむら）（現・黒潮町）浮鞭（うきむち）に定住する。 （戸籍では幡多郡七郷村大字浮鞭 33 番屋敷に出生とある）	
1896	29	5	村の助役を勤めたことがある父親がテルの年齢を普通より 1 年早くごまかして南郷尋常小学校に入学させる（当時の修業年限は 4 年）	
1900	33	9	入野高等小学校に入学（当時の修業年限は 2 年または 4 年）	
1902	35	11	入野高等小学校 2 年修了。愛媛県宇和島中学校を受験して合格。宇和島の叔父（美弥の弟）、眼科医の尾崎通信の書生となって通学。 一高生・藤村操の自殺に大きなショックを受け、人生を考えるには哲学の学習が必要と痛感。	5 月 22 日、一高生・藤村操が日光華厳滝に投身自殺。
1907	40	16	宇和島中学 5 年卒業。医者になって金儲けをしろと主張する叔父と意見が合わず、1 年間上級の学校をどこも受けず、家の手伝いをする。	
1909	42	18	親族の勧める岡山医学専門学校を受けると見せかけて、京都の第三高等学校を受験して合格。9 月 11 日、三高へ入学（第一部乙類）。 平田禿木に英語、厨川白村に英文学を教わる。	
1910	43	19	人生問題を解決するには哲学を勉強しなければならない、とドイツ語を必死で学習する。	6 月 1 日、幸徳秋水ら検挙される。
1911	44	20	5 月、『新小説』懸賞論文 2 等入選。「日本の国民性と其の文学」。	1 月 18 日、大逆事件判決、幸徳秋水死刑。
1912	45 大正 1	21	7 月 6 日、第三高等学校卒業。 9 月、京都帝国大学文学部英文科入学。 主任教授上田敏、言語学を新村出、ロシア語・ロシア文学を山口茂一に学ぶ。	
1915	4	24	卒業予定のところ、イギリス人教師と対立し、英語（シェイクスピア）の講義をボイコットし、卒業論文も出さなかったので、1 年留年。 ロシア語教室で哲学科に入学した土田杏村と知り合う。	
1916	5	25	5 月、 ロシアの詩人バリモントが来日、山口茂一にかわってタカクラが接待する。 7 月 13 日、京都帝国大学卒業。（卒業論文「グレゴリイ夫人の作物」） 新村出教授の指導のもとで、京都帝国大学法科・国際私法研究室（主任・跡部定次郎）の嘱託となる。（月給 30 円） 西田幾多郎・波多野精一などの講義に出て、哲学から入学した三木清と知り合いになる。 12 月、「上方舞踊の危期」（『邦楽』創刊号）を発表。	
1917	6	26	3 月～ 4 月、「プーシキン評伝」（『芸文』）を発表。	ロシア、社会主義革命。
1918	7	27	2 月～ 4 月、「バリモント詩抄」（『芸文』）を発表。	7 月～ 8 月、米騒動。
1919	8	28	9 月 28 日、ア・デ・ルードネフ著、山口茂一訳『蒙古文典』の翻訳に助力する。 10 月 1 日、戯曲「砂丘」（『改造』）を発表（厨川白村が推薦の言葉を書いている）、初めて文壇に認め	2 月、長谷川如是閑・大山郁夫ら、雑誌『我等』を創刊。 4月、雑誌『改造』創刊。

			られる。	
1920	9	29	1月、戯曲「焔まつり」(『我等』) を発表。 6月、「山口先生と自分」(『芸文』) を発表。 12月、戯曲「孔雀城」(『改造』) を発表。	10 月 2 日、信濃黎明会発足。
1921	10	30	5月 10 日、ロシア戯曲訳『心の劇場』(内外出版社) を出版。 6月、土田杏村から自由大学の相談を受ける。 指導教官・新村出の海外出張中に京都帝国大学の嘱託をやめ、創作家として独立。 9月、戯曲「切支丹ころび」(『改造』) を発表。 9月 17 日、父輝房、脚気のため、鵜来島で急死 (63歳)。 帰郷し、故郷にいる間にロシア語の教師・山口茂一をモデルにした長編小説「蒼空」を書き始める。 このころから文壇の第 3 次「新思潮」の芥川龍之介・菊池寛・久米正雄らによる文壇からのボイコットが始まる。 12 月 1 日～6 日、信濃自由大学「文学論」(上田市横町神職合議所、68 名)。	11 月 1 日、信濃自由大学開講。
1922	11	31	1月 15 日、戯曲集『女人焚殺』(アルス) を出版。 9月ころ、 安田津宇と婚約。 12 月 5 日～9 日、信濃自由大学「文学論」(県蚕業取締所上田支所、63 名)。 12 月 25 日、安田津宇と結婚、長野県星野温泉におちつく。のち軽井沢千ヶ滝へ移る。	7月 9 日、森鷗外没。 7 月 15 日、日本共産党結成。 11 月 18 日、アインシュタイン来日。
1923	12	32	1月、東北文化学院「文学論」。 2 月、文壇のボイコットによって、プラトン社から「蒼空」の掲載を破約してくる。以後、北原白秋の弟・北原鉄雄が社長をしていたアルスから単行本として出版。 4月 10 日、戯曲集『海峡の秋』(アルス) を出版。 6月 1 日、長編小説『蒼空』(アルス) を出版。 6月 30 日、安田津宇との婚姻届出。 7 月 28 日、評論集『我等いかに生く可きか』(アルス) を出版。 8 月 6 日～8 日、魚沼自由大学「近代思潮論」(堀之内小学校、約 150 名)。 8月 6 日、婦人のための講演「恋愛と家庭」。 8月 11 日～13 日、岩船夏期大学で講演。 9月 27 日、長女信 (のぶ) 生まれる。 10 月、長野県別所温泉常楽寺のはなれへ移住する。 10 月末、信南自由大学設立につき横田憲治が訪ねてくる。 12 月 1 日～5 日、信濃自由大学「文学論」(県蚕業取締所上田支所)。 12 月 16 日、八海自由大学発会式「発会式に臨みて」(伊米ヶ崎小学校)、講演「文学概論」。	1 月、菊池寛、「文藝春秋」発刊。 6 月 9 日、有島武郎、心中自殺。 9月 1 日、関東大震災。
1924	13	33	1月 28 日～2 月 1 日、信南自由大学「文学論」(飯田町江戸町正永寺、52 名)。 2月 1 日、伊賀良村青年会で講演「イワンの馬鹿」。 6 月 15 日、短編集『かうして嬰児がこの世へ生れた』(アルス) を出版。 8 月 10 日、「自由大学に就て」(伊那自由大学パンフレット『自由大学とは何か』) を執筆。 8月 15 日、自由大学協会準備会を高倉輝宅で開く。 8月 18 日～22 日、魚沼自由大学「文学論 (ダンテ)」(堀之内小学校、約 100 名)。	1 月 8 日、信南自由大学開講。 3 月 17 日、LYL 検挙事件。

			9月18日、戯曲『長谷川一家』(アルス)を出版。 12月10日～15日、上田自由大学「文学論」(上田市役所)。 12月16日、松本自由大学発会式に出席(松本公会堂、約200名)、講演「二つの世界」。(猪坂直一も同行)。	
1925	14	34	1月8日～12日、伊那自由大学「文学論(ダンテ研究)」(飯田町天竜倶楽部、26名)。 1月8日、伊那自由大学公開講演「所感」(百十七銀行楼上)、(猪坂直一も同行)。 1月10日、「露西亜文学研究(プーシキン)」を『自由大学雑誌』に連載。 3月15日～17日、下伊那地方(千代、市田)へ講演。 6月6日、長編小説『阪』上巻(アルス)を出版。土佐にいる母美弥を迎えに行く。 9月20日、自由大学協会幹事会(別所温泉花屋ホテル)に出席。 9月27日、長男太郎生まれる。 12月1日～4日、上田自由大学「文学論」(上田市役所、30名)。	3月、治安維持法、普通選挙法成立。
1926	15 昭和1	35	1月10日、群馬自由大学発会式に出席(前橋臨江閣、150余名)、講演「文学の成立に就て」。(猪阪直一も同行)。 2月3日～6日、伊那自由大学「ダンテ研究(続講)」(飯田小学校、15名)。 2月23日～26日、群馬自由大学「文学論」(前橋男子師範学校)。 4月8日、長編小説『阪』下巻(アルス)を出版。 4月25日～27日、川口自由大学「文学論」(西川口小学校)。 11月4日、評論集『生命律とは何ぞや』(アルス)を出版。	
1927	2	36	この年別所温泉柏屋別荘主人斉藤房雄の好意で、本人設計の家を建て、別所温泉を永住の地と定める。 1月7日～15日、「大原幽学のこと思温荘雑話」を『信濃毎日新聞』に連載。 6月18日～12月31日、長編「高瀬川」を『都新聞』に連載。 10月9日、川口自由大学「文学論」(西川口小学校、約70名)。 12月10日、『世界童話集(上)』(日本児童文庫18、アルス)を出版。 12月20日、許可により輝豊を輝に改名。	5月、アルス「日本児童文庫」刊行開始。 5月、興文社「小学生全集」刊行開始。 7月24日、芥川龍之介自殺。
1928	3	37	2月9日、次女房(ふさ)生まれる。 2月、上田自由大学の再建に協力する。 2月、第16回衆議院総選挙(最初の男子普通選挙)に農民組合から立候補を勧められたが辞退する。 3月14日～16日、上田自由大学「日本文学研究」(上田図書館、60名)。 4月14日、上小農民組合連合会結成式に出席(上田市公会堂)、講演「耕す者は永遠である」。 5月21日、青木村農民組合結成式(修那羅山)で記念講演。 6月18日～21日、「インテリゲンチアとは何か」を『都新聞』に連載。 12月1日～4日、伊那自由大学「日本民族史」。	2月、第16回衆議院総選挙(普選の実施)。 3月15日、共産党員の全国的検挙(3・15事件)。

1929	4	38	1 月 10 日、『チェーホフ集』（近代劇全集 28、第一書房）を出版。 2 月 28 日、妻津宇の従兄山本宣治、別所温泉の高倉輝宅を訪れ、津宇と 8 年ぶりの再会。 3 月 1 日、上小農民組合連合会第 2 回大会に出席（上田市公会堂）、講演「農民運動の意義」、山本宣治「無産政党代議士の議会観」。 3 月 5 日、山本宣治、暗殺される。 3 月 5 日、「耕す者は永遠である」（『伊那自由大学』第 1 号）を発表。 3 月 6 日、山本宣治死去の報をうけ上京。 3 月 8 日、山本宣治の告別式（東京本郷仏教青年会館）に参列。 3 月 14 日、上田自由大学での講義を延期。 3 月 15 日、上小農民組合連合会「山本代議士追悼大演説会」（上田市公会堂）で「山本の一生及び凶刃に倒れたる最期より葬儀に列せる事実の報告」を報告。 4 月 2 日、和（かのう）農村研究会の創立記念講演会（和小学校講堂）で講演。 5 月 15 日、『山本宣治全集』全 8 巻（安田徳太郎・高倉輝編集、ロゴス書院）を刊行。 秋、別所温泉のために、長唄「風流七苦離乃里」を作詞。 10 月 5 日、『印度童話集』（日本児童文庫 14、アルス）を出版。 12 月 6 日～ 9 日、上田自由大学「日本文学研究」（海野町公会堂、28 名）。 12 月 20 日～ 22 日、伊那自由大学「日本民族史研究」。	4 月 16 日、共産党員の大検挙（4・16 事件）。
1930	5	39	1 月 28 日、「農民運動のラッパ吹き拝命」（『上田毎日新聞』）を発表。 1 月 31 日、東信無産派選挙対策委員会結成式（上田市公会堂）で執行委員長に選出される。 5 月 1 日、山本宣治記念碑除幕式が高倉輝宅の庭先で行われる。 7 月 2 日～ 9 月 5 日、「百姓の唄」を『都新聞』に連載。 9 月 9 日、次男次郎が生まれる。 11 月 2 日、全国農民組合西塩田支部結成式（西塩田村新町劇場）で演説。 西塩田村小作争議始まる。 11 月 20 日、『高瀬川』（ロゴス書院）を出版。	9 月 28 日、全農上小地区委員会発足。 11 月 23 日、「全農長野県聯、旧上小農聯合同声明書」発表。
1931	6	40	2 月 12 日、全農上小地区委員会第 1 回大会開催について高倉輝宅で打合会を開く。 5 月 1 日、次男次郎、発育不全のため死亡。 8 月、伊東三郎の紹介で守屋典郎が訪ねてくる。3 か月間常楽寺のはなれに住む。 9 月 12 日、共産党の裁判を傍聴、弁護士会館で秋田雨雀と会う。 10 月 30 日、三女友（とも）生まれる。 11 月 11 日、日ソ文化協会（前ソヴェート友の会）主催のソ連北極探検隊歓迎会に出席。	9 月 18 日、柳条湖事件（「満州事変」起こる）。
1932	7	41	1 月 5 日、全農上小地区委員会主催「西塩田村小作争議批判演説会」（西塩田村新町劇場）、高倉輝「寺と質屋」、布施辰治「西塩田村小作争議の展望」。 1 月 17 日、全農別所支部、女工委員会を結成。この女工委員会の組織化に関係する。	

			1月、共産党の拡大のため守屋典郎が真栄田（松本）三益とともに訪ねてくる。 2月25日、三女友、肺炎で死亡。 3月25日、西塩田村小作争議、調停交渉が行われ、農民組合側の勝利で解決。 3月、高倉輝を慕って関口龍夫一家が常楽寺の別荘に6か月間移り住む。	
			4月16日～19日、「亡児を悲む記」を『都新聞』に連載。 8月6日～11月16日、長編「狼」を『都新聞』に連載。（検閲によって中断される） 11月13日、布施辰治宅での晩餐会に参加。山崎今朝弥・安田徳太郎・秋田雨雀ら。	5月15日、犬養毅首相射殺される（5・15事件）。
1933	8	42	1月13日、上田市の全農上小地区事務所で15日のカール・リプクネヒト、ローザ・ルクセンブルク記念日計画打ち合わせ、各情勢報告等の会合中に検束される。 2月3日、三男三郎生まれる。 2月23日、「2・4事件」で農民組合員とともに上田署に検挙される。6か月間面会なし。 9月15日、新聞記事解禁と同時に、長野署にまわされ、はじめて妻津宇との面会を許され、その日のうちに長野刑務所に入る。 10月、家族は長野県外へ追放となり、東京市滝野川区滝野川町1841へ移る。	4月、滝川事件。 6月、佐野学・鍋山貞親転向声明。
1934	9	43	7月30日、長野刑務所から釈放され、東京の家へ帰る。 東京地裁で懲役2年の判決を受け、ただちに控訴、執行猶予3年の判決が下る。	
1935	10	44	1月14日、「高倉君の夕」が山水楼で開かれ、秋田雨雀・安田徳太郎・岡田道一二・三木清・藤森成吉・河崎なつ・田村栄・上泉秀信・北原鉄雄・徳永直ら約20人が集まる。 このころ高橋貞樹の執行停止運動、義援金募集運動を行う。 2月18日～20日、「味噌」を『都新聞』に連載。 7月1日、「糞の話」（『文学評論』）を発表。 9月1日、「文学当面の問題」（『文学評論』）を発表。はじめて筆名を輝からテルに変える。 9月23日～27日、「秋風たつ」を『都新聞』に連載。 11月1日、「農民文学の意義、任務」（『文学評論』）を発表。 11月4日、高橋貞樹の告別式に参列する。 12月1日、「国語国字問題の意義」（『唯物論研究』）を発表。 このころまでに国語国字・漢字制限の問題を研究するかたわら、国語協会・カナモジ会、日本ローマ字会の会員となる。 この年、のちのゾルゲ事件の関係者、宮城与徳と会う。	
1936	11	45	1月、築地小劇場後援会機関誌『観客』の編集に参加。 1月19日～21日、社会時評「史的角度より」を『都新聞』に連載。 2月、2・26事件のさい、大田典礼と赤坂見附付近を歩き、情報を収集する。 4月、長女信が神奈川県立平塚高等女学校へ入学するため、神奈川県中郡国府村生沢87へ移る。	2月26日、2・26事件。

			5月 1日、「綴方教育の根本問題」(『教育』) を発表。 6月 13 日～ 16 日、「農村に移り住んで」を『都新聞』に連載。 8月、神奈川県中郡大磯町東小磯 316 へ移る。 8月～ 9月、「日本国民文学の確立」(『思想』) を発表。 12月 20 日、『尊徳読本』(人生読本第2巻、建設社) を出版。 12月 25 日、『芭蕉読本』(人生読本第1巻、建設社) を出版。 12月 30 日、『綴方教育の根本問題』(東京帝国大学学生ローマ字会) を出版。タカクラ・テルの筆名をはじめて使う。 この前後に佐藤正二と知り合う。	
1937	12	46	1月 20 日、『松蔭読本』(人生読本第3巻、建設社) を出版。 1月 20 日、『日蓮読本』(人生読本第5巻、建設社) を出版。 2月 1日、「正しいカナズカイ」(『地方文化』創刊号) を発表。 2月 20 日、『良寛読本』(人生読本第4巻、建設社) を出版。 3月、「ローマ字運動の過去・現在・未来」(『文字と言語』第 11 号) を発表。 4月 1日、『益軒読本』(人生読本第6巻、建設社) を出版。 7月 1日、「日本語再建」(『中央公論』) を発表。 9月 1日、「漢字わ日本にだけ残るか？」(『中央公論』) を発表。 9月 1日、「自由大学運動の経過とその意義」(『教育』) を発表。 9月 27 日、新築地劇団 1937 年度決算総会で文芸顧問団の一人に選ばれる。 10 月 1日、「ミイラ・取りの話」(『国語運動』) を発表。 11 月 1日、「教師と教養」(『生活学校』) を発表。	7月 7日、盧溝橋事件(日中戦争始まる)。
1938	13	47	1月 25 日、『良寛読本』(人類読本第5巻、建設社) を出版。 1月 25 日、『益軒読本』(人類読本第6巻、建設社) を出版。 3月 27 日～ 30 日、「日支同文の意義」を『都新聞』に連載。 4月 1日、「支那事変と国語教育」(『教育』) を発表。 4月 27 日～ 29 日、戯曲「子もり良寛」が新築地劇団第 10 年記念第一公演として新宿第一劇場で上演される。千田是也演出、薄田研二・山本安英ら。 4月 28 日、「国語問題と綴り方教育」(『国語・国語教育』臨時号) を発表。 6月 1日、「綴り方教育の本質」(『教育』) を発表。 6月 1日、「偉大な日本人　大原幽学」(『家の光』) を発表。 8月 21 日、鎌倉姥ヶ谷の別荘に滞在中の西田幾多郎を訪ねる。 10月 1日、「アジアの思想とアジアの言葉」(『思想』) を発表。 10月 1日、「世界最初の産業組合創設者　大原幽学」(『国民思想』) を発表。 10 月 28 日、『一茶の生涯とその芸術』(ルミノ出版社) を出版。	
1939	14	48	1月 10 日、『大原幽学』(東邦書院) を出版。	